

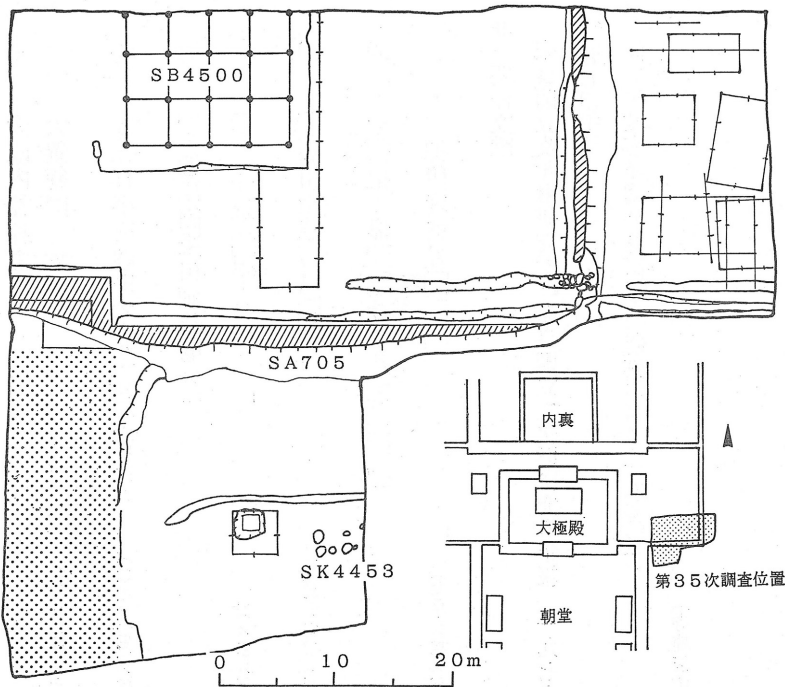
一九七七年以前出土の木簡（一二）

奈良・平城宮跡（第三五次）

- 1 所在地 奈良市佐紀町
- 2 調査期間 一九六八年（昭43）一月～一九六九年四月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 坪井清足
- 5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代初期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は、いわゆる「第二次朝堂院」の大極殿東外郭大垣の東南隅の部分で行った。検出した主な遺構は、南面築地と東面築地、および外郭大垣内側に礎石建ちの総柱建物SB四五〇〇、外側に掘立柱建物数棟と井戸などである。

南面築地は全長九一m（三〇〇尺）あり、その西端で大極殿回廊の東南隅に接続し、東面築地は全長九八・四m（三三〇尺）で、北は内裏東外郭の築地に接続する。南面築地のほぼ中央には門があり、門



第35次調査遺構図

から北と南に道がのびている。

木簡は南面築地の南にある井戸の周辺に点在する小土坑群SK四四五三およびその上部の堆積土から出土した。点数は合計一四一点である。木簡の年代は、(2)(6)の「天平」、及び(4)の「大養徳国」の表記が『続日本紀』によれば天平九年三月〜同一九年三月に限ってみられることなどから判断して、天平年間を中心とするものと推定できる。

木簡の内容は陰陽寮に関するものがまとまっており、平安宮大内裏図にみえる陰陽寮の位置と、発掘地が相対的に類似することが注目される。

8 木簡の積文・内容

- (1) 「陰陽寮移 大炊寮 給飯捌升 右依」

例給如件録状故移
 □□□□□□□□^{〔年八月カ〕}
 □□□□□□□□
 從八位下□□□□
 419×(35)×5 011

- (2) □陰陽寮解申宿直

・『月天平』(天地逆)
 (78)×(6)×3 081

- (3) 「陰陽寮受飯八□^{〔升カ〕}

・□□□□□□□□
 (89)×(9)×2 081

- (4) 大政内礼礼主

大養徳国 大 (85)×(34)×6 081

- (5) 廿五日小三卷即本受一卷十日 (115)×(10)×2 081

- (6) 「近江国乘田備銭壹」 71×16×3 032

・「天平□年」 102)×(23)×7 081

- (7) □石川由恵万呂□ (202)×20×3 081

- (8) ・十□把 冊□□廿八把二□□^{〔二カ〕} (202)×20×3 081

・把伊麻婆礼□□□□^{〔婆カ〕}

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報 一九七〇』

(一九七〇年)

同『平城宮発掘調査出土木簡概報(七)』(一九七〇年)

(寺崎保広)